北九州 Z-TIMES

2026年号外
(10月)

約50名の若者×4社。企業の“リアルな課題”に挑んだ5日間。

「日本一若者を応援するまち」の実現を目指す北九州市は、
「何かに挑戦したい」「一歩踏み出したい」と思うZ世代を対象に、
「Z世代チャレンジ！2026 in 北九州」を実施しました。



Z世代チャレンジ！2026 in 北九州とは

「Z世代チャレンジ！2026 in 北九州」は、若者が企業とタッグを組み、企業が実際に抱える課題の解決に挑む5日間の共創型プログラムです。参加した約50名の若者は12チームに分かれ、街に出て自分たちの目で確かめ、企業担当者やチームの仲間と何度も対話を重ねました。企業から与えられた課題に、すぐに“答え”を出すのではなく、「そもそも何が課題なのか」「誰のためのアイデアなのか」から考える。街を見て、人に聞いて、企業と話して、時には立ち止まって考え直す。そのようなプロセスを繰り返しながら、12チームがそれぞれの提案を磨き上げました。





プログラム概要

主　　催：北九州市Z世代課
運　　営：株式会社ATOMica
会　　場：ATOMica北九州
期　　間：2026年8月25日~26日、9月9日~11日
参加人数：49名（4~5名×12チーム）
参画企業：(株)井筒屋、西日本鉄道(株)、(株)ミクニ、
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス(株)

参画企業4社＆挑戦テーマ

株式会社井筒屋

北九州唯一の百貨店・井筒屋と考える北九州に「新しい文化や価値」を作るためには？

既存の「北九州らしさ」にとらわれず、商品、体験、ストーリー、贈り方、広がり方までを含めて、これからの北九州に生まれる新しい価値、まだ名前のついていない魅力を考えてください。

西日本鉄道株式会社

チャチャタウンからはじまる、日常の中で訪れたくなる砂津エリアとは？

小倉駅徒歩10分程度の東側に広がる砂津エリア（チャチャタウン）が、若い世代にも親しまれ、日常の中で訪れたくなる場所となるための魅力や体験、回遊などの視点からデザインしてください。

日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社

地域とともに創る、AI時代の北九州とは？（テクノロジー×地域共創）

日本アイ・ビーエムデジタルサービスとして、多様な主体（行政・企業・大学・市民など）がデジタル技術を通じてつながり、新しい価値や共創を生み出す10年後（2036年）の北九州の仕組みを考えてください。

株式会社ミクニ

部屋だけで終わらない、まちとつながる暮らしとは？

単なる部屋の提供にとどまらず、人や地域との新しいつながりが生まれ、北九州での暮らしがもっと楽しくなる仕組みやサービスを提案してください。

各企業テーマ毎に3チームずつ、合計12チームが課題解決に取り組みました！

5日間の歩み

DAY 1 見る・知る・出会う

プログラムのキックオフとともに、小倉駅周辺でフィールドワークを実施しました。参加者は実際に街を歩き、普段なら何気なく通り過ぎてしまう風景を、自分たちの目で観察。「なぜここに人が集まるのか」「もっと活用できる場所はないか」など、街に潜む違和感や魅力を探しました。その後、参画企業４社から、実際に企業が抱える課題をインプット。共に5日間を駆け抜けるチームも結成しました。まずは自分たちで見て、感じて、仲間を知る。ここから5日間の挑戦が始まりました。



DAY 2 問いを立て、仮説をつくる

企業から与えられたテーマをそのまま解決しようとするのではなく、「そもそも誰が困っているのか」「本当の課題は何なのか」をチームで掘り下げました。企業の課題と、自分たちが感じる違和感や本音を重ねながら、それぞれのチームが独自の「問い」を設定。その問いを起点に、「こうすれば人の気持ちや行動が変わるのではないか」という最初のアイデアを組み立てていきました。さらに企業担当者と直接対話。現場を知る企業からのフィードバックを受け、自分たちの思い込みだけで考えていなかったか等を確かめながら、アイデアを見直しました。「企業から出された課題」から、「自分たちが本当に解きたい問い」へ。チームごとの挑戦が少しずつ形になっていきます。



DAY 3 アイデアを磨く-リアルを確かめる

自分たちのアイデアが「本当に求められているのか」を確かめる日です。アイデアを広げる発想法も取り入れながら、まずはチームでできるだけ多くの案を出し、その中から課題解決につながる提案を絞り込んでいきました。さらに、当事者へのヒアリングなどを通じて生の声を収集。自分たちでは「良い」と思っていたアイデアも、実際の声を聞くことで、新たな課題や見直すべき点が見えてきます。中間発表では企業へアイデアをプレゼンし、もらったフィードバックを「反映するもの」「いったん保留するもの」「さらに調べるもの」に整理しました。考えて終わりではなく、実際の声に触れながら、アイデアを何度も問い直していきました。



DAY 4 さらに磨く。そして、伝える

これまで積み重ねてきた「問い」「アイデア」「その根拠」「企業からのフィードバック」を整理し、一つの提案として形にしていきました。「なぜこの提案なのか」「誰にどんな変化を生み出したいのか」「本当に実現できるのか」。チームで何度も話し合いながら、アイデアをさらに深掘りしました。提案内容が固まってからは、資料作成とプレゼンテーションの練習へ。他チームとの相互フィードバックも行い、「伝えたいこと」と「相手に伝わること」の違いにも向き合いながら、最終発表に向けて提案を磨き上げました。アイデアを考える段階から、“企業に伝わる提案”へ。5日間の成果が形になっていきます。



DAY 5 成果発表 -Demo Day

各チームのアイデアは次のページへ！

いよいよ5日間の集大成となるDemo Day。参画企業や応援企業が見守る中、全12チームが、それぞれの提案をプレゼンテーションしました。限られた時間の中で、企業課題にどう向き合い、どんな問いを立て、なぜこのアイデアにたどり着いたのか。5日間の試行錯誤も含めて、自分たちの言葉で企業へ届けました。発表後には企業から一つひとつの提案に講評が送られ、修了セレモニーを実施。最後は、この5日間で自分自身にどんな変化があったのかを振り返りました。でも、ここがゴールではありません。5日間で生まれたアイデアの一部は、実際に小さく試してみる「次の挑戦」へと進んでいきます。



全12チーム・アイデア紹介 -前半-

日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社 | 地域とともに創る、AI時代の北九州とは？（テクノロジー×地域共創）

Aチーム（チーム名：AI上等♡）

AIを活用した街魅力発信＆マッチングアプリ「みつける、つながる、北九州。」

北九州市内の大学生と地域の店舗や施設をAIで最適マッチングするアプリ。ミッションや投稿を通じて学生に新たな出会いとインセンティブを提供し、若者の街への関心と活性化を生み出す提案。



Bチーム（チーム名：TYPE"e"（タイピー））

高齢者×AI×かかりつけ医「コミュおば（AI対話要約システム）」

高齢者の日常の会話からAIが健康状態や変化を要約し、かかりつけ医へ届けるシステム。親しみやすい対話AIがシニアに寄り添い、医療アクセスやコミュニケーションを円滑にする提案。



Cチーム（チーム名：北九-GO!）

歩道を走るAI自動運転モビリティ「北九-GO!」

高齢者や車椅子・ベビーカー利用者の徒歩移動を支援する歩道走行型自動運転車。走行時のカメラデータから道路の凹みや障害物をAIが検知し、誰もが安心・快適に移動できる街を目指す提案。



株式会社ミクニ | 部屋だけで終わらない、まちとつながる暮らしとは？

Dチーム（チーム名：MIKUNINEXT~家より先に、街を見る。~）

まちとつながる住まい探し「MIKUNI NEXT（街の内見）」

物件契約前に地域の店舗や住民と触れ合える「街の内見」体験や地域マップの提供。住まい選びの段階から街のリアルな魅力や人間関係とつなげることで、住む場所への愛着と定住を促す提案。



Eチーム（チーム名：トビダセ。）

新生活の孤独を解消する地域コミュニティアプリ『おかえり。』

一人暮らしや転入した学生に向けた地域コミュニティアプリ。アパート単位で設置され、地域の掲示板やマップ、クーポン機能を通じて、新しい街での情報不足や孤独感を解消し安心を届ける提案。



Fチーム（チーム名：CITYCONNECTORS FOOT軽）

働くママ向けリフレッシュ空間「BIZ-LAB（仮眠・マッサージブース）」

BIZIA小倉のコミュニティスペースBIZ-LABにおいて、忙しく働くママが昼休みに爪ケアやヘッドマッサージ、アロマ仮眠で心身をリセットできる空間を提供し、自分の時間と午後の活力を取り戻せるサービス提案。



株式会社井筒屋 | 北九州唯一の百貨店・井筒屋と考える北九州に「新しい文化や価値」を作るためには？

Gチーム（チーム名：黒翼の颯桜船(コクヨクノソウオウブネ)）

思い出アップデート！～思い出の品をリメイクする体験～

着られなくなった思い出の着物や部活ユニフォームをクッション等にリメイクする体験サービス。大切な品を新しい形で手元に残す体験を通じ、Z世代が井筒屋へ訪れるきっかけを作る提案。



Hチーム（チーム名：ちグHa組）

記憶を贈るデコ缶ギフト「CANVAS ーあなたのために、ひと工夫。」

映画風のオリジナル缶にリボンや写真、ステッカーを自分好みに組み合わせて装飾できるデコ缶ギフト。プレゼントの包装自体も思い出としてカスタムできる、Z世代向けの新しいギフト提案。



Iチーム（チーム名：アイ）

小倉探索トレーディングカードパック「小倉する。」

小倉の観光地やグルメの魅力をトレーディングカード化し、1日の散策プランを提案。カードゲームやクーポン利用を通じ、若者が楽しみながら地元文化や歴史に親しみ好きになる提案。



全12チーム・アイデア紹介 -後半-

西日本鉄道株式会社 | チャチャタウンからはじまる、日常の中で訪れたくなる砂津エリアとは？

Jチーム（チーム名：J-HUB）

砂津エリア大規模複合再開発
「人と街を結ぶ ライフスタイル・ゲートウェイ」

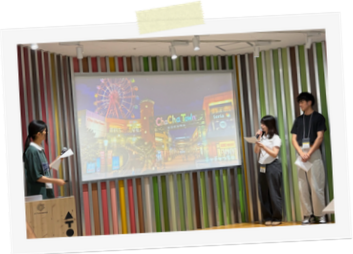
チャチャタウンと西鉄バス営業所エリアを一体再開発。上層階ホテル・温泉、体験店舗、イベント広場に加え、西鉄歴史博物館を併設したバスターミナルを整備し、砂津の回遊性と滞在価値を高める提案。



Kチーム（チーム名：チャチャっちゃ）

チャチャタウン夜のにぎわい創出
「ナイチャTOWN(ナイト・チャチャタウン)」

夜の遊び場を求める若者が集まれる夜のサードプレイス。夜間スパや深夜カフェ、野外シネマの導入に加え、夜間シャトルバス運行等と連携し、砂津の夜間滞在と賑わいを創出する提案。



Lチーム（チーム名：日常チャ飯時）

多世代の縁をつなぐコミュニティ空間
『チャの間タウン』

チャチャタウン内にステージや駄菓子屋、喫茶エリア等を配置し、大きな「茶の間」のような空間を創出。世代を超えた交流や対話を生み出し、孤独を解消して第二の実家のように集える提案。



参画企業が感じた、Z世代との共創

5日間、若者たちの挑戦に伴走した企業担当者は、Z世代ならではの視点や、対話を重ねながら提案を変化させていく姿をどう感じたのでしょうか。
4社の担当者に、若者と共に取り組んだからこそ、得られた気づきを聞きました。



日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社 **漆崎さん**

課題を、強みに変える視点

ただアイデアを出すだけではなく、北九州市のことを鋭く分析し、地域が抱える課題さえも“強み”として捉え直して提案してくれたことが印象的でした。



株式会社井筒屋 **左右田さん**

若者から、企業も学ぶ

これまで自分にはなかった価値観や、想像していなかった発想に触れることができました。若者と一緒に考えることで、私自身の視野も広がったと感じています。

株式会社ミクニ **村田さん**

柔軟な発想と、変える力

私たちにはない柔軟な発想に加え、企業からのフィードバックをすぐに受け止め、提案をブラッシュアップしていく力を強く感じました。



西日本鉄道株式会社 **眞鍋さん**

同じ課題を、違う角度から

私たちと同じ課題や問題点に気づいていても、そこへのアプローチが全く違う。その“別の角度から見る視点”が、とても印象的でした。



若者が企業から学び、企業も若者から学ぶ。

Z世代チャレンジ！は、世代や立場を越えて、互いの「当たり前」を問い直す5日間となりました。

5日間を終えて、参加者に起きた変化

企業課題に向き合い、初対面の仲間と議論し、自分たちの提案を企業へ届けた5日間。そこで生まれたのは、12のアイデアだけではありません。参加者一人ひとりにも、新たな気づきや変化が生まれていました。



大蔵 好花 さん　#自分の強みを発見

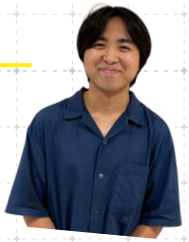
自分の強みに気づくことができた5日間でした

最初は、チームの中で自分がどんな役割を担えばいいのか分からず、不安もありました。でも、みんなでアイデアを考えていく中で、「自分はアイデアを出すことが得意なんだ」と、自分自身の強みに気づくことができました。最終日の企業へのプレゼンは緊張しましたが、チームで作り上げたアイデアを伝えきることができ、大きな達成感がありました。

長木 大耀 さん　#地域を見る視点を発見

北九州を知ることから、アイデアが変わっていきました

最初は北九州のことも企業のことも分からず、自分に何ができるのか不安でした。企業の方に親身に向き合っていただき、チームで話し合ったり、地域のことを調べたりする中で、少しずつアイデアが具体的になっていきました。この5日間で学んだ、地域の声とZ世代の視点を掛け合わせて考えることを、これからの活動にも生かしていきたいです。





松本 愛生 さん　＃仲間と答えを発見

何度も立ち止まりながら、仲間と答えを探しました

アイデアを考えることに夢中になるあまり、企業からいただいたテーマから離れてしまい、チームで何度も立ち止まることがありました。それでも、全国から集まった仲間と意見を出し合い、同じゴールに向かって考え続けた時間は、とても有意義でした。この5日間で出会った仲間との縁を大切にしながら、ここで身につけた行動力を、これからの新しい挑戦にも生かしていきたいです。

参加者からは、こんな声も。

グループをまとめることは苦手だと思っていましたが、自分から周囲に働きかけることで、少しずつチームを動かせるようになりました。

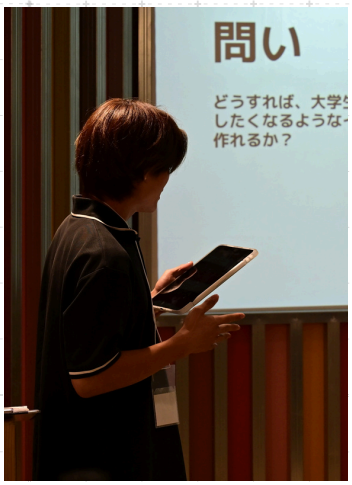
人見知りで、初対面の人に自分の意見を伝えるのが苦手でした。でも、5日間を通して、いろいろな人と積極的に話し、自分の考えを伝えられるようになりました。

チームで大切にしたいことを共有し、それをどう実現するかを考えることの大切さを学びました。違う意見を取り入れて、一つのアイデアにしていく難しさも実感しました。

ここで終わらない。Next Challengeへ

5日間で生まれたアイデアは、発表して終わりではありません。 今後は、12チームから生まれた提案の中から、企業と若者が「まずは試してみたい」と考えるアイデアについて、運営事務局も伴走しながら実装の可能性を探ります。 5日間で繰り返してきた、「考える→確かめる→対話する→磨き直す」というプロセスを、今度は企業や地域を舞台に実践していく予定です。5日間で生まれた「アイデア」を、北九州で「実践」に変えていく。 Z世代チャレンジ！2026 in 北九州の“次の挑戦”が、ここから始まります。















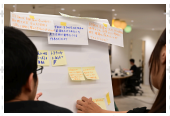


















本プログラムのダイジェスト動画を視聴できます

右記のQRコードから動画をご視聴いただけます。
参加者の熱い挑戦の様子をぜひご覧ください。

#1　#2